

## 四恩十善の教え

生かされている喜び (四恩)

人として生きる道 (十善)

生かされて生きる道

私たちは、この世に生を受け、喜びも悲しみも、また、苦しみも楽しさも味って生きています。人それぞれが願いを持ち人生を歩んでいる。だれにでも父があり母がいる。友がおり師がいる。人として生きる第一歩は、『心』を持つことだとされている。『心』に『なされたことを知る(知恩)』『なされたことを感ずる(感恩)』そこに人として生きる始まりがある。

弘法大師は、さまざまに説かれているこの知恩、感恩、報恩の思想をまとめた『心地観経』報恩品から『四恩』をもって示されている。一、父母の恩 二、衆生の恩 三、国の恩 四、三宝の恩である。

**父母の恩** 父に慈恩あり、母に悲恩ありとされている。仏の心とは、同体大悲といわれる。かぎりない「いつくしみ心」である。

**衆生の恩** 仏陀釈尊をはじめ、この世に生れたすべての人々が遺されたものにより、また、あらゆる人々と助けあって生かされ生かして生きていることを知る。

**国の恩** 世界がどんなに広がるうとも、生活の場と生命の安全を保つ国、この恩は、はかり知れないものがある。

**三宝の恩** 私たちが願いをこめ、救いを求める仏があることは、無上の喜びである。

人として生きる道を示してくれる仏の教えが伝えられていることは無上の喜びである。一五〇〇年もの間、仏の教えを伝え弘め、護持してきたあらゆる国々の仏教徒御先祖に、心から感謝し、報恩の誠を捧げずにはおられない。

### 人として生きる道

仏の教えに導かれて生きることは、知り、行い、自らが生きることである。身体の活動、言葉の働き、心の持ち様を自らが浄め莊嚴することである。仏の本質とされる 知恵 と 慈悲 を私たちが実践することである。

弘法大師は、その根本を十善の道として示された。あらゆるものに広大な慈悲心をもって行う道である。

一、あらゆるものの生命を尊び殺さない。

二、他の人のものを奪わない。

### 一口法話

#### 悪をよびとめる

#### 善をよびとめる



明治四拾年卒業生

明治25年9月30日花園高等小学校を創立、寿楽院が学舎となる。明治42年4月1日小学校と高等小学校を統合して花園尋常高等小学校設立、従前通り高等科は寿楽院におかれた。大正4年12月20日まで学校として利用されていた(写真提供、笠原佳一郎氏)

- 三、正しく男女の情愛を保ち、邪淫の心を起さない。
  - 四、いつわりを語らない。
  - 五、迷い心から人を惑わす言葉を語らない。
  - 六、ののしりの言葉を発しない。
  - 七、人の仲を裂く二枚舌を用いない。
  - 八、おしみ心を持たず食らなない。
  - 九、にくしみやいかりの心を起さない。
  - 十、正しく仏の教えを信奉し、邪法に迷わず仏道に生きる。
- この十善の道は、仏の教えに生き、生かされてゆく根本精神であり、実践の道である。この十善の大切な生き方を尊重し、実践することは、自らを清浄にし、他の人々とともに生きるための自らの誓いでありたい。

## 空海の言葉

### シリーズ

#### 十悪に快うして、

#### 誰か後身の報を覚らん

十悪業を楽しんで毎日を過してしまっている、先でどんな報いを受けるか、誰も知らない。

- 一、おのれ憎つくきあの男！ あいつをひと思いに……
  - 二、駅前の銀行に押し入り、三億円ほど脅し取って、誰にもわからずに逃げおうせたら最高だろ。
  - 三、どんな美人女優でも、人妻でも、おれが狙った女は誰でも、自由になつたら、どんなに愉快だろ。
  - 四、おれがどんな大ほらを吹いても、英雄あつかいをしてくれたら、さぞ気持ちがいいだろ。
  - 五、おれが歯の浮くようなお世辞をいっても、本気で受け入れてくれたら、気持ちがいいだろ。
  - 六、人の悪口を、いいたい放題にいえたら、気持ちがいいだろ。
  - 七、二枚舌の威力で、仲のよかつた人たちがみんなけんかや仲違いをしたらおもしろいだろ。
  - 八、自分のものはなに一つとして他人にやらないぞ。他人はどうなつてもいい。
  - 九、すぐ腹を立てるぞ！ おれより少しでも偉いやつ、金持ち、強いやつ、そんなやつが一人もいなければ、気持ちがいいだろ。
  - 十、おれはむちゃくちゃをやろぞ！ 無理は承知だ。無理が通れば道理は引つ込むからな。
- さて、一は殺人、二は盗み、三は淫乱、四はうそ、五はおべっか、六は悪口、七は二枚舌、八はけちと強欲、九は怒りと嫉妬、十はむちゃな考え。これを「十悪の楽しみ」といいます。弘法さんは、こういわれます。「十悪これを好き勝手に気持ちよく、毎日やっていることが、あの世での恐ろしい報いになって現れるかを誰が知っているだろうか」

